

## 保育士養成カリキュラム変更に伴う保育実習における学生の変化について

## その1 健康状態について

○中山 孝 ・ 鈴木 恒一 ・ 小原 榮子

(名古屋文化学園保育専門学校)

## 1. 研究目的

『児童福祉法施行規則第39条の2第1項第3号の指定保育士養成施設の修業教科及び単位数並びに履修方法(平成13年厚生労働省告示第198号)により新たに定められ、これに基づく保育実習の履修方法等は「保育実習実施基準」によることとして、平成14年度入学者から適用する。』この告示改正によって、特に保育実習が従来の必須科目「保育実習Ⅰ(事前事後指導を含む)」に加え「保育実習Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」が選択必修科目に改正された。本校に於いては、平成15年度より「保育実習Ⅱ」を選択必修科目とし、このため保育所に於ける実習が2週間から4週間となり、8月上旬に1週間及び9月下旬から10月中旬の3週間実施している。

そこで、保育実習が2週間から4週間になったことによる学生自身の心身の変化について注目し、これを学生の健康状態からの側面、そして学生の実習修得度の側面から検討していきたい。

まず、本研究では学生の健康状態の側面から学生の心身の変化について検討する。

## 2. 研究内容与方法

研究内容は次の通りである。

- (1) 保育実習中の健康状態の年度比較について
- (2) 保育実習中の健康不良者の疾病等の年度比較について
- (3) 保育実習中の健康不良による実習欠席理由構成及び実習欠席者数の年度比較について
- (4) 保育実習中の健康不良による実習欠席日数構成及び実習欠席者数の年度比較について

研究方法は次の通りである。

質問紙法により実習実施後、アンケート調査を行った。調査実施日は、2002年度は10月7日(月)、2003年度は10月14日(火)である。

アンケート内容を資料1に示す。この内、本研究では、質問項目の内『3) 体調について』(自由記入)から実習中の学生の健康状態の分析を行った。

また、学生の実習中の欠席については、学校への欠席理由の連絡を義務づけており、この結果についての

分析を行った。なお、本校の保育実習では乳児保育を中心とした実習を希望・依頼しており、保育実習時の実習対象児の年齢構成は資料2表1(以下資料2を省略)の通りである。

また、アンケート対象者及び実習期間は、次の通りである。

## 【2002年度】

2年生 184名(男子 26名 女子158名)  
9/23(月)～10/5(土) 2週間

## 【2003年度】

2年生 181名(男子 24名 女子157名)  
8/4(月)～8/9(土) 1週間  
9/22(月)～10/10(土) 3週間

## 3. 結果と考察

## (1) 保育実習中の健康状態の年度比較について

学生の健康状態の年度比較について、表2に示す。2002年度には、184名中、健康状態が良好であった学生は、108名(58.7%)、これに対し、実習期間中不良又は一時期不良であった学生は、76名(41.3%)となった。これに対し、2003年度では181名中健康状態が良好と答えた学生は77名(42.5%)、そして不良と答えた学生は、104名(57.5%)となり、不良と答えた学生が、27名(15.0%)上回った。

このことは、2002年度の実習期間が2週間であったのに対し、2003年度では、4週間となり、この実習期間の増加が実習中の学生の健康状態に影響していると考えられる。

また、健康状態が不良であった学生の内、一時的に体調を崩した学生について注目すると、2002年度では、57名(31.0%)に対し、2003年度では、86名(47.5%)となり35名(15.5%)増加した。これについても前述同様、実習期間の増加が考えられる。

しかし、これに対し健康状態が良好の学生の内、自らが健康管理に努めたとアンケートを通して申告した学生が、2002年度、そして2003年度を比較するとほとんど変わらないことから実習期間の増加だけ

ではなく、このような状態にも関わらず学生の健康管理意識の低さを示していると考えられる。

#### (2) 保育実習中の健康不良者の疾病等の年度比較について

保育実習中、健康不良となった学生の疾病等は表3が示す通りである。なお、この数字はのべ人数である。2002年度と2003年度を比較するとその疾病とそののべ人数に大きな差はみられない。

しかし、腰痛については、2002年度にはのべ人数104名中、1名(1.0%)であったのに対し、2003年度では、148名中8名(5.4%)と増加した。

これは実習期間の増加に伴い、乳幼児との関わり(抱っこなど)が時間的にも量的にも増加し、腰などに負担がかかる場合が増加していると考えられる。

#### (3) 保育実習中の健康不良による実習欠席理由及び実習欠席者数の年度比較について

保育実習中の健康不良による実習欠席理由及び実習欠席者数の年度比較について表4に示す。これは、各年度の健康不良者の内、実習欠席理由別に実習欠席者数を分析し、比較したものである。

まず、健康不良者の内、1日でも実習を欠席した学生を見ると2002年度では、11名(14.5%)、これに対し2003年度では、29名(27.9%)と割合から比較して約2倍となった。

また、欠席理由別に見てみると両年度とも風邪により欠席した学生が多く見られたが、2002年度では8名(10.5%)だったのに対し、2003年度では22名(21.2%)とこれについても約2倍と増加している。さらに2002年度では見られなかった腰痛が2003年度では、3名(2.9%)、さらに胃炎が2名(1.9%)見られた。

これらのことから欠席者数のこのような増加は、実習期間が2週間から4週間に増加されたことに関連があると考えられるが、2003年度においては、欠席理由についても腰痛が見られた他、胃炎が見られたことは、『現代の学生は打たれ弱い。』などという言葉で表されるように実習期間が増加したことによる精神的プレッシャーが原因によるものも含まれているのかもしれない。このようなことから今後も様々な健康不良による欠席理由が出現する怖れがあるのではないかと考える。

#### (5) 保育実習中の健康不良による実習欠席日数及び実習欠席者数の年度比較について

保育実習中の健康不良による実習欠席日数及び実習欠席者数の年度比較について表5に示す。これは、各年度の健康不良者の内、実習欠席日数別に実習欠席者数を分析し、比較したものである。

欠席日数別に見てみると両年度とも欠席日数1日の学生が最も多く見られたが、2002年度では、8名(10.5%)だったのに対し、2003年度では、24名(23.1%)となり、2倍以上の増加となった。さらに2002年度では、欠席2日の学生が2名(2.6%)であったのが、2003年度では、4名(3.8%)となった。

これらのことから欠席日数では、実習期間が2週間から4週間に増加されたことによる学生の実習欠席日数の増加は見られない。しかし実習期間が増加されたことにより実習期間中において1日欠席した学生が2倍以上に増加したことは、大きな問題であると考えられる。

#### 4. まとめ

保育実習において、実習中留意しなくてはならない点として『健康の維持』は何よりも重要であり実習の土台でもあることは言うまでもない。しかし、これまで学生の実習期間中の健康状態の分析を多面的な視点から考察し、様々な問題点が含まれていることが明らかになった。これらのことを念頭におき今後の学生の健康という視点からどのような実習指導が必要であるのか整理を試みた。

- ・ 学生への健康管理の重要性の周知と理解の徹底
- ・ 学生の自己健康管理の知識・方法の理解の徹底
- ・ ボディーメカニクス等により身体に関する機能を理解し、実習中に於いて身体の機能に負担のかからない知識・方法の修得の徹底

また、今回の研究を通して推測された学生の精神的な弱さから起こるのではないかと思われる胃炎、これが実習中の健康状態に影響を及ぼし、さらに実習中の欠席に結びついているかもしれないということは、実習のみならず就職の際にも大きな問題を引き起こす可能性が危惧される。

今後は、さらに実習中の学生の健康状態について学生の精神的な弱さとの関連の有無、そしてあるとすればどのような状態で現れ、実習にどのような影響を及ぼすのか検討していきたい。

(資料1・2は会場で掲示及び配布します。)